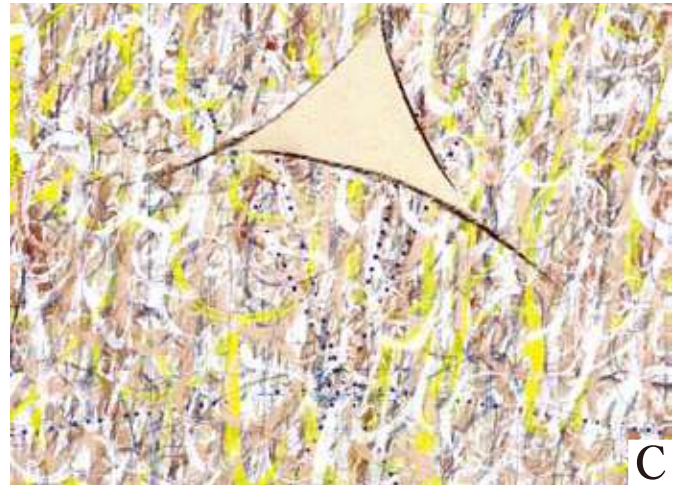




# Chatterbox IV

—4人で手繰る性と美術—

2024年3月25日(月)～30日(土)



いぐちなほ

Naho Iguchi

ギャラリー一檜 B

飯沼知寿子

Chizu Iinuma

ギャラリー一檜 C

月兎

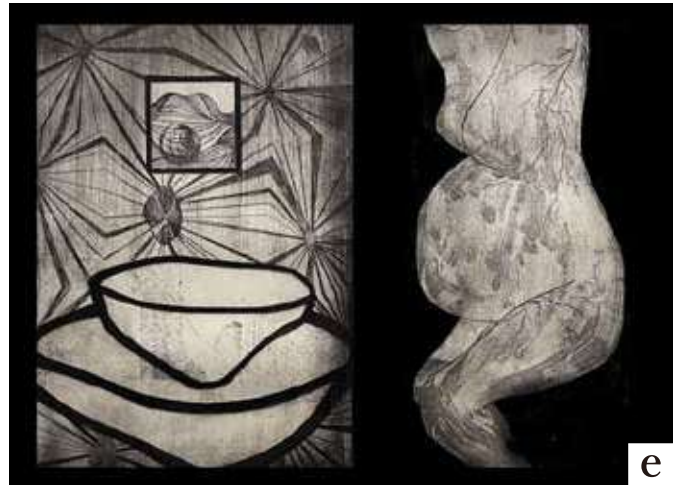
Usagi Tsuki

ギャラリー一檜 e

大島美枝子

Mieko Ohshima

ギャラリー一檜 F



**飯沼** 2023年春、日本でやっと経口中絶薬が承認されて「性と生殖に関する健康と権利」<sup>1</sup>への意識が徐々に高まってきました。性と生殖、それらにまつわるジェンダー<sup>2</sup>は女性の生き方を大きく左右します。「私の体は私のもの」という主張はフェミニズム<sup>3</sup>やフェミニズム・アート<sup>4</sup>にも多く見られました。未だにそれが古びないのは、女性の性や生殖における決定権が侵害され続けている為でしょう。4回目のChatterboxではいづちなほさん、大島美枝子さん、月兎さんともそれぞれ経験や思い、制作や表現について言葉を交わしていきたいと思います。

\* \* \* \* \*

## 美術制作への転向

**飯沼** 「月兎」さんはアーティスト名ですね。月 本名に使われている漢字は日本にないから、漢字の一部の「月」を使って「月兎」になりました。あと小学生の時、中国でずっと『セーラームーン』<sup>5</sup>を見ました。主人公の月野うさぎは男の子みたいな強い女じゃないやなくて、かわいい泣き虫の強い女。そういう感じになりたい。私は泣き虫だから。

**飯沼** まさに私は日本の『セーラームーン』世代。タキシード仮面っていうヒーローがいてセーラームーンのピンチを救うんだけど、彼は励ますだけで結局はセーラームーンが戦うよね。女の子向けの作品の中では、ヒロイン像の転換点だっという評価もある。

月 そんなに深く考えてない。ただあの男の

子は重要じゃないのが分かった。私が大嫌いのアニメは男の子が優秀、女の子はバカでかわいい。もし男の子の夢が医者なら女の子は看護師になりたい。めちゃ人気だったけど私はずっとこれが変と思ってた。

**いぐち** 平凡な女の子が最後、白馬の王子様と結ばれるのが少女漫画の王道ですね。

月 あと設定の中に絶対あるのが数学に弱い女の子。皆が5点とか10点はありえない！私は数学が得意だから。

**大島** ステレオタイプでそうなっちゃうね。

月 私は子どもの頃から美術が大好き。でも私の成績まあまあいいから、両親は美術より普通の大学に入る方が絶対いいと思って。だから私は成績の為に毎日勉強した。高校生の時は本当に大変だった。

**飯沼** 受験戦争っていう感じなのかな？

月 本当に戦争だよ。学校の中に大きな字で「皆の成績は皆の命」とか書いてある。怖いよ。あと「恋愛絶対禁止」とか。

**いぐち** 共学？

月 男女一緒。中国は分けてる学校がない。髪は耳以上長いのがダメ。前髪は眉毛より下はダメ。皆、軍人みたいな感じ。

**飯沼** それは全部受験戦争に勝つ為？

月 そう。男性も女性も同じ服着て、めちゃ嫌だった。服が同じの理由は、ゆったりした服で第二次性徴の女性っぽさが見えないから。全部恋愛禁止の為。でも私、小学生からずっと恋愛してるし、先生バカって思ってた。恋愛するから成績いいよって！

**飯沼** 素晴らしいね。

月 理系のことも嫌いではない。夢中になっ

て勉強した。でも大学に入ったら少しづつ「自分は誰？何が好き？」とか考えた。1年生の時にシモーヌ・ド・ボーヴォワールの『第二の性』を読んで、本当にやりたいことは理系じゃないと思いはじめた。理系の中でも優秀のことを全部やってみて、3年生の時やっと両親に「私全部がんばった。できるけど好きじゃない、やりたくない」と言ったら父にめちゃ怒られた。「君はバカー君の専攻はめっちゃ成績のいい子だけが入れる」とかいっばい言つて。父と何回も喧嘩して、私は後で自分のお金で美術を勉強することにした。3年働いて貯金して学費ができた時に仕事を辞めた。両親はまた「君はバカーなんでそんなにいい仕事辞める」とか言ったけど、私は日本に来た。日本で武蔵美の大学院を合格したら突然父に認められた。私はずっと、両親は成績がいいから私を愛しているかもしれないと思ってきた。自分の子どもの思想とかやりたいことが一番じゃない。成績が一番かもしれない。だから今も私は一生懸命がんばって休むことができない。でも私、ダンナが大好きじゃん。ダンナは「成績いい私」が好きじゃなくて「私」が好き。これがないと意味がない。

**飯沼** いぐちさんはどうして制作するようになったんですか？

**いぐち** 小学生の時はビーズ、フェルト、毛糸とかそういうのが好きだった。うちは、お姉ちゃんは勉強ができて優秀、妹は手芸とか家庭的なことが得意だからお嫁に行けばいいみたいなスタンスだったの。作るの好きだけど、美術は自分のものじゃないと思つて

1. リプロダクティブ・ヘルス(性と妊娠・出産などに関わる全てにおいて身体的、精神的、社会的に良好な状態)と、リプロダクティブ・ライツ(産む・産まない、出産の時期や人数など、生殖に関することを自分で決める権利)の総称であるリプロダクティブ・ヘルス/ライツのこと。 2. 社会的・文化的に規定される男らしさ・女らしさなどの性別の差や性別による役割。 3. 女性解放思想及び運動。社会で生じる性差別を明るみにし、平等な社会を目指す。 4. 男性中心主義の美術史、美術界及び社会を問いかける美術。1960~1980年代に欧米で隆盛。 5. 『美少女戦士セーラームーン』の略称。武内直子(1967~)による日本の漫画及びメディアミックス作品。月刊漫画雑誌『なかよし』で連載(1992~1997年)。 6. フランスの哲学者、作家。1970年代に人工妊娠中絶の合法化を求める運動をはじめとする女性解放運動に積極的に参画、大きく貢献した。(1908~1986)

た。でも高校の美術の先生に何回か褒められたことがあって。校庭から拾ってきた石を描いて石と話をしてくださって授業があったの。めっちゃ楽しくて、石と話をした文章と絵を出したらA花丸だったんですよ。その時から美術で面白いのになって思った。

**飯沼** 大学では哲学科でしたよね。

**いぐち** 中学の頃から東洋哲学に興味をもったんだけど、学習院の哲学科は思想系と美術系とあって。なぜか美術史に行ったんですよ。そうすると作品についての発表で、「この時に画家はこう思っていました」とか言う人がいるわけ。ホント!? って。青い色を塗ったから本当に憂鬱だったの? って。それで自分でやってみようと思つて制作を始めたのが20歳くらい。30前後にはアートの勉強会みたいな集まりにも顔を出してたんです。でも、もう言つてることが毎回同じなの。私は基本的に何も言わない。女は叩かれるから。

**飯沼** 女の人達は黙つて聞いている?

**いぐち** 女性は馬鹿にされる。若い男の子もそう。3回までは馬鹿にされてその後「ちよつといいじゃないか」って言うの。常に同じ。で、嫌だなと思つて辞めた。

**月** 私は美術史何も分からないから羨ましい。

**いぐち** でも大学はあんまり面白くなくて、哲学の勉強も卒業してから始めた感じ。お姉ちゃんが思想をやっているから、私が考えることを話すと「これを読みなさい」って言われて、フェルディナン・ド・ソシュール<sup>1</sup>とかミシェル・フーコー<sup>2</sup>とかを泣きながら読んだ。確かに現代思想って今はない新しい

考えだから、簡単な言葉で説明できないのは分かるんだけど、本当に脳みそがえぐるくらい辛いわけ。でもそうやって一応、考えるという下地はある。全ての基本は哲学って考えるから、政治的な問題とか女性問題も、哲学的な命題を解決すれば解決するんじゃないの? っていうのが私の大きなテーマ。いつも哲学的なテーマを掲げてるのはそういうことなの。

**飯沼** そうなの? そんな難しいことは考えてないって言つてませんか?

**いぐち** 難しいことは考えてないんだけど、例えば私はキャンバスをへこませたいわけ。なぜかと思つて、絵画は盛るものであつてへこませるものじゃないから。それって何て言うの: 既に概念として絵画はこうつてあるのを潰したいわけですよ、私は。まず欲求としてある。でもそれを深く考えていくと一応哲学的命題なんだなつて。勘つてあるじゃないですか。私はすごい論理的なものだと思つて。だから自分がなんとなく「潰してやる」つて作つたものと哲学的な命題が、パーンつて繋がるんだと思つてる。

## 作品とジェンダー

**飯沼** 大島さんは、現在は木片を繋いで人

体のような造形を多く作っていますね。

**大島** 昔の作品の資料を持ってきたの。もうすごい昔。ブロンズに石に: これは石膏直付け<sup>3</sup>の作品。木が芯になつてそこに石膏をつけてそれで削つて。

**月** テーマが一緒。  
**飯沼** 形の伸び方が今の作品に通じている。芯の段階で大体の形はできているんですか?

**大島** そう。だから「何でわざわざ石膏つけなくちゃいけないんだよ」つて。大変なのよ、削つたりつけたりしていると部屋中が真っ白けになつて。よく考えたら木のままでいいんじゃないかつて、今の制作になつた。

**飯沼** 近年のテーマは「死と再生」ですね。

**大島** 「再生」は結構皮肉つていうかさ。どんなことがあつても人も地球も再生していくつていう感じではなくて「本当に再生できるの?」つていう問いが、私の中にずっとあるんですよ。環境問題もそうだし、あと少子化。私ね、主に女性の反乱だと思つての。こんな状態で子どもを安心して育てられないじゃないの。無意識のうちにそういう反乱をしてるんじゃないかなつて。

**いぐち** 破壊への道ですね。私もそれ思います。無理だもん。

**大島** 結婚に育児、賃金格差もあるし、あとリプロダクティブ・ライツ<sup>4</sup>つて言うの? 避妊や中絶の問題も結局まだ古い法律のままなわけよ。配偶者の承諾がないと中絶できない。そうやつてもものすごく遅れてるわけでしょう? 146カ国中125位<sup>5</sup>、だつて?

**飯沼** ジェンダーギャップ指数<sup>6</sup>、ですね。

**大島** フランスみたいに結婚しなくても子どもができたらちゃんと認めればいいんだけど、政治家に家長長制<sup>7</sup>、ガンガンのオヤジがいつばいいるからさ。そんな日本で誰が子どもを産む?

1. スイスの言語学者、記号学者。近代言語学の父と呼ばれ、20世紀後半の記号論および構造主義思想に影響を与えた。(1857~1913) 2. フランスの哲学者、思想史家でセクシュアリティ研究の先駆者。主に権力と知識の関係を論じる。(1926~1984) 3. 木材や網などを使った芯に石膏をつけたり削つたりして造形する技法。 4. P.2の脚注1.を参照。 5. 2023年のジェンダーギャップ指数における日本の順位。第一回の2006年以降スコアはほぼ横ばいだが順位は下落傾向が続き、過去最低の順位となった。 6. スイスの非営利団体「世界経済フォーラム」が経済、教育、保健、政治の分野毎に各使用データより算出している。 7. 父系の家族制度において、家長が家族員を支配・統率する家族形態。このような原理に基づき、男性が支配的で特権的な地位を占める社会システム。

いぐち (大島を指す)

大島 私はもつと前に産んでしまったのよ！  
一同 (笑)。

いぐち 大島さんって団塊の世代<sup>1</sup>、じゃないですか。産んでないのでって団塊ジュニア<sup>2</sup>、なんですよ。私達はガチガチの就職氷河期<sup>3</sup>、だったんです。皆、正社員になれないから低年収で結婚もできないし子供も産めない。

飯沼 大島さんが作る抽象的な人体っていうのは、性別を意識しているんですか？

大島 全然、中性的。一個の人間として、私、モデルさん使って20年塑像<sup>4</sup>をやったの。だからやっぱり、人の形にすごく興味がある。

飯沼 それを中性的にしようとするとか何か変な操作が入らないですか？

大島 え？どういう意味？

飯沼 性的なものを排除しようというか。

大島 あー…あるかもしれない。あんまり考えたことないけど今言われてみて…。そう、排除しているかもしれない。男作るのも嫌だし。女！ってのを作るのも嫌だし。

飯沼 女を作るのが嫌なのは、世の中に男が作った女の像が溢れているからですか？

大島 そうでもないな。私の中では女性性も否定しているのかもしれないね、ひよっとしたら。今、気づいた。

いぐち 女の体も男の体も嫌。男でもない、女でもない人間の体。理想？

大島 一個の人間として、男でも女でもない。何なんだろうね。

いぐち 私ね、姉に「へこませるのは女性性」だって言われたことがある。要するに凸は男

根、凹は女性器なんじゃないのって。

大島 そんなこと考えてないよね。  
いぐち ないない。でも「絵画とか美術は、盛り上げるのが男性性の象徴なんじゃないの？」って言われて、なるほどなと思った。

私は、自分の作品からジェンダーを排除しても、繋げて考えてもない。でもそういう見方は可能だし、無意識にそういうのがある可能性もある。男性中心の社会を壊したい。男性的な絵画をぶつ壊して女性的なものを持つてきたい。それが、へこませるといふことなのかなと思っただ。

## 美術と教育で開く性

月 私は言いたいことがめっちゃ多いから絵が大好き。普段そういう感じで話すとただの文句を言う人。けど、絵になったら作品じゃん。作品になるとちよつとだけ曖昧になつて、皆も見ると自分の考えを思い起さず。これの方がいいと思つてます。

大島 それぞれの人の見方で見てくれるってことね。

月 絶対描きたいテーマがずっと描けなかった。大学院修了の前をやつと描いた。『イナンナ』これは処女膜についての絵。イナンナは昔々の女王様で、自分のきれいな性器を見て自信を持って力を手に入れる。私とめっちゃ合う物語。処女膜にはホールがあつて人それぞれいろんな形がある。私はホールがほとんどない形で、処女膜も厚すぎてホールが全然見えなかった。

いぐち そんなの調べられるの？

月 私は病気があつたから分かつた。でもずっと知らなかつた。生理の時、血があままり出ないからめっちゃ痛い。でもトイレに行つてちよつと力を入れるとチューって血が出る。だから私はずっと痛くて、トイレでちよつと血を出してちよつと大丈夫。1時間経つと「あー痛い」になつて。病気のせいだった。病院に何回も行った。皆私にホルモンの薬とかいろんな薬を出すけど、処女膜のことを全然考えてない。分かつたの理由は結婚前にする病気のチェック。

飯沼 え、待つて。病気があつたら結婚できないってこと？

月 相手には言わない。でも中国では結婚前にそういう検査があつて、参加するか自分で選べる。例えば性病と遺伝の病気のチェックがある。それでやつとお医者さんが見て問題あるのが分かつた。手術したら生理の痛みがほとんどない！私25歳の時に分かつたの。何で15歳じゃないの！10年くらい毎月めちゃ痛い。だからこういうことは絶対描きたい理由。「もし君に生理の問題があつたらチェックして。自分で触つてみて」とか言いたいの。でも直接言つたら変態じゃないですか(笑)。だから絵を描いた。もし、ホールがなく生理もないなら子宮がないタイプかもしれない。あの時めっちゃびっくりした。「え、ホールない。君、生理があるの？」って聞かれて、あつて言つても先生ちよつと信じられない。「本当に血が出たの？毎月出る？たまに出る？」とかいっぱい聞かれて「あー私、子宮がないの!？」って。前は私、そんなに子ども欲し

1. 日本での第一次ベビーブームが起きた1947~1949年に生まれた世代を指す。第二次世界大戦の終結に伴う男性の復員により、若い男女の婚姻が急増して出生人口の大幅な増加が発生した。 2. 日本での第二次ベビーブームが起きた1971~1974年に生まれた世代を指す。団塊世代の子供の世代に当たる。 3. 新卒に対する有効求人倍率の低水準時期。主にバブル崩壊後の不景気以降に就職難となった1993~2005年。 4. 粘土など、可塑性のある材料を用いて像を作る彫刻技法。ブロンズ像などの原型として造られる。

いではない。でも、できないのと欲しくないのとは別の話。だから私は子宮とか卵巣いっぱい描いたじゃん。手術で切って色々検査してもらってやっと「私、子宮あるんだ」って確認したら、子ども産む能力を1回くらい使いたいと思った。

**いぐち** 能力使う前に終わってしまったわ。

**月** 妊娠したいみたいな感じ。お腹の中に何かいるのが面白い。外から見るとお腹はただの大きいじゃん。でも赤ちゃんが自分のお腹にいと、中にめっちゃ大きい世界を感じる。赤ちゃんがここで触ってそこで触って、全然感じが違う。世界があるみたいな感じ。

**大島** 宇宙がある？

**月** そうそう。

**飯沼** 自分の性器を見るっていうテーマは、フェミニズム・アートにあるよね。これは『アート&フェミニズム』<sup>1</sup>、っていう本で、学生の頃に買ってよく眺めていた。これはニキ・ド・サンファル<sup>2</sup>の『How。子宮の中に観客が入っている。母親の養育者としてのジェンダー、子宮の神秘というジェンダーを否定する作品。これはルイーズ・ブルジョワ<sup>3</sup>の『Cumul I』。この石の作品はおっぱいと男根が入り混じって集まってる。これはキキ・スミス<sup>4</sup>の『Tale』。

**大島** へー面白い。

**飯沼** 女性が生きていく上で引きずり続ける苦痛を表して、ネガティブだけど、そこに向き合った作品だっと思って。

**月** 出産の前に見た時は嫌な作品と思ったけど、出産終わったらめっちゃ分かると思った。女性は出産の瞬間は動物になる。脳からコントロールじゃなくて体からコントロール

する。だからウンチも出るし吐くし、全部汚いけど動物になったからしょうがない。そういう感じ。

**大島** 「血液もしくは糞便のようなもの」だっけ。それを四つん這いの人が引きずっている。これ見ると悲劇だね。この作品。

**飯沼** たぶん、そういうのを表させなきゃいけない時期があるんですよ。

**大島** 分かる気がする、すごく。

**飯沼** 性教育も重要だと思っんです。2003年に七生養護学校事件<sup>5</sup>があつて。

**大島** 私はその頃、小学校の図工の専科だった。あれは結構私達の間では有名だったんだけど、要するに知的障害児とかそういう子達が性被害に遭いやすいのよ、すごく。それを防ぐ為についていうんで、先生達は性器のついた人形を一生懸命作って性の授業をしたの。実物に近い形で教育しないとほら、なかなか伝わらないから。それを数名の都議会議員が問題にしたわけ。視察だっけって新聞記者を連れて学校にズカズカ踏み込んで行って、人形を取り上げたの。

**飯沼** 裁判では、視察での議員達の言動や行動に問題があつたことが認められました。

**大島** 政治の不当介入だ。教育基本法で禁止されてんのよ。

**飯沼** その後も東京の区立中学校の性教育が槍玉にあげられて。若い子の性被害とか中絶が多い地域だからこそ不可欠だったの。

**大島** 「寝た子を起こすな」って言うの。

**飯沼** そう、多感な年頃の子達に刺激を与えて興味を煽るなって。でも性についてネッ

ト検索すれば怪しい情報が溢れているわけじゃないですか。質の悪い情報しか与えられない若い子が望まない妊娠をさせたり、してしまったり、中絶するか産まなければならぬのが現状です。ちなみに、秋田県では中高生に対する性教育講座を行うようになってから、全国平均を上回っていた人工妊娠中絶率がおよそ10年で3分の1に減ったっていう成果が出ているんです<sup>7</sup>。

**大島** ちゃんとやんなきゃだめだよ、絶対。

## フェミニズムの展望

**大島** 男もさ、その思想によって自分を苦しめてんのよ。

**飯沼** 今、いろんな国で「女への優遇」に男が怒っている。彼らは問題の本質を見ずに女にあたっているように見えますね。

**月** 中国で今一番大きい問題は、結婚の時の結納金が高いの問題。結納金はもともと妻を買う家長制社会の問題。だけど今の男の子達は女の子に怒ってる。「君達は売春女だから結納金欲しい」って言う。違うよ！

でも男性に説明しても分からない。ある時、男友達が突然私に「君は何でフェミニストになるの？」と怒って聞いた。彼は高い結納金を出せなくて彼女に捨てられた。女性が結納金を欲しいの理由は「結納金は女性の権利」ってフェミニストが主張しているせいと思っけ、彼は突然私に怒った。

**大島** 勘違いしてるんだ。

**月** そう、全然逆じゃないですか！それと

1. ヘレナ・レキット編、2005年、ファイドン。 2. フランスの画家、造形作家。女性に課されたジェンダーへの批判的表現や、女性性を肯定する作品で知られる。(1930~2002) 3. フランス出身のアメリカの彫刻家。身体、ジェンダーなどをテーマにさまざまなメディアで表現。(1911~2010) 4. 西ドイツ出身のアメリカの美術家。生命と死、人間と自然の関わりを彫刻や版画など多様なメディアで表現。(1954~) 5. 2003年、東京都立七生養護学校の知的障害を持つ児童に対する性教育の内容が不適切とする都議会議員の非難を受け、都教育委員会が当時の校長及び教職員に対し厳重注意処分を行った事件。 6. 2018年、東京都議会本会議で議員が足立区立中学校の性教育を非難して是正を求めた。最終的に都教育委員会は授業を容認する姿勢を示した。 7. 2000年に17.7であった秋田県の10代の人工避妊中絶率(15~19歳の女性人口1,000対)が、2010年には5.2まで下がった。

私が結納金いくらももらったか聞かれた。私は「もらっていないよ。結納金欲しくないよ」って言ったら彼は突然「じゃあ私はフェミニストと結婚する！」と喜んだ。君の思想ではフェミニストの友達もできないのにどうやって結婚するの!?!この後、別の男友達も突然私に「何でフェミニストなの？」と聞いた。皆、彼女と関係が良くない時はフェミニストのせいと思う。君の彼女が結納金を欲しいのは、彼女がフェミニストじゃないからだよ!

**いぐち** でもさ、どんな希望を持てるかなって思う時はあるの。どうしてもフェミニズムの話すると暗くなるじゃない。前向きな発想がなかなか出づらないーと思って。

**飯沼** 最近、1980年生まれの男の人が書いた『さよなら俺たち』<sup>1</sup>を読んで。もともとかわいくてポップなものが好きだったのに、中高の男子校生活で「男らしさ」を内面化してしまう。そんな著者が大学では女の恋愛相談にのる活動を始めて、いろんな男の最低な話を聞くうちに「完全に俺じゃん……」ってなる(笑)。女性学は「女性を考察の対象とした、女性の為の、女性による学問」<sup>2</sup>って言われるけど、男自身も男って何なのか、本当はどうありたいのかをもっと見直していくべきじゃないのか、そういう視点の本でした。だから男の人が自分について考えることが希望なんじゃないかな。女の人だけが自分達の問題としてやっても限界がある。

**いぐち** そう、男達が気づいていかないと。

## 断片と再生

**大島** 彫刻なんてやってもアルバイトか、私みたいに学校の先生になるか。でもバブル<sup>3</sup>で潤ってた頃は「街に彫刻を」<sup>4</sup>って、いろんな地方自治体が彫刻シンポジウム<sup>4</sup>を主催してた。今や彫刻公害<sup>5</sup>って言われてるけど、それを生活の糧にしてた人もいる。合間にはアルバイトとかして。当時は建設ラッシュでもあったから、技術のある彫刻家は引く手数多でさ。それで素材とか技術の面だけに固執して作る傾向が男の人に多かった。超絶技巧で圧倒するとか。

**飯沼** そういう人は今もいますね。

**大島** 「知らない」「できない」は恥っていう空気があって。そんなところで張り合わなきゃいけない人は気の毒だと思つたの。だってどうでもいいじゃん、そんなの(笑)。私なんか全然知らないからさ。どういう木を使ってますか?とか、いつも聞かれるんだけど「分かりませーん」<sup>6</sup>って言うの。分かりませんって言ったっていいわけ。だつていろんな木を組み合わせてんだから。男の人の世界はそれじゃダメなんでしょうね。

**飯沼** 大島さんはじゃあ、どういう話をしたいですか?

**大島** 作品の中身とその造形の話?一番いいのはさ、そういうことよね。この形はどういうところから発想してこういう形になったんですか?って聞かれるのが一番嬉しいかな。飯沼さんは?

**飯沼** うーん、自分ではある意図とか思いで制作したものを、見た人がちよつと通じるけどちよつと違う解釈をする。それを聞くのが私は面白いかなー。

**月** うんうん、私も。

**大島** それがさつき兔ちゃんが言つた、言葉より美術で表した方が広い世界を表現できるとつていうことの意味だと思ふんだ。見た人が自分の感性とか経験によつて、もう全然違う見方してくれるから「えー!」<sup>7</sup>ってというのが何回もある。

**飯沼** 大島さんには全然違うつて言われちゃうと思うんだけど、私は大島さんの作品がこう、断片が集まって一つの形になつていくつていうのがなんかね。ネガティブな話で……私は突然すごいヒステリックになつて、自分を殺してやりたくなるんです。自分が紙つぺらみたいな存在で、それをぐちゃぐちゃに破り捨てて、だけど破つた後に結局こう……惨めに拾い集めて、繋ぎ合わせる……。そういうイメージを自分に対して持つていて。もう元の状態には戻せない。でも違つたものとしてまた何か新しくできるなら、そういう風にして生きていけばいいか。

**大島** なるほど、うん。

**いぐち** なんかさ、抑えてんだね。私は言いたいこと言っちゃうけど、知寿子さんはものすごい激しいのを理性できゅーっと抑えて、時々バコーン<sup>8</sup>つてなるんじゃない?ぐちゃぐちゃに、魍魎<sup>9</sup>みたいになつたものをもう一回整えて作つていく感じのかな。そんな激しい……いつもさ、フンみたいな感じじゃん?  
**大島** そうでもないけどまあ、そんなに激しくね。いぐちさんなら分かるけどさ。  
**月** 分かる(笑)。

**大島** さつき見せた資料で『砕ける人』<sup>10</sup>っていう石膏直付けの作品の時がそうだったの。

1. 清田隆之(桃山商事)著、2020年、スタンド・ブックス。 2. 1974年、日本の大学で初めて「女性学」の講座を和光大学に開設した井上輝子(1942~2021)による女性学の定義。 3. 1986年~1991年の日本のバブル景気を指す。バブル経済そのものは、不動産や株式などの時価資産価格が経済成長を上回る高騰によって実体経済から大幅にかけ離れ、投機によつても支えきれなくなるまでの経済状態を指す。 4. 彫刻家達が制作や議論を通じて互いに刺激し合う場。地域に開かれた野外での公開制作や公共の場に作品を設置する都市計画の要素を多く含む。日本では1980~1990年代に最盛期を迎えた。 5. バブルの頃に野外の公共の場に設置された数多く作品が、自治体の予算の縮小とともに負担となり、汚損された姿で放置されていることを揶揄した表現。

もうめちやくちやにして、作品の出来なんてどうでもいいやみたいな感じで。ちょうど大変な時だったな。離婚するかどうかで迷った時。バラバラにして：もう今の自分を、そういう世界をぶっ壊したいっていうこと。すごくよく分かる。あの時の自分にそっくりりだなんて思ってた。

**飯沼** じゃあ、そういう気持ちもちよつとあったんですね。

**大島** ああ、あった。

**飯沼** だから再生ということも言ったらしたけど、断片を繋ぎ合わせて一つの形が作られていくっていう作品のあり方に、私自身を重ねてしまうというか。

**いぐち** 離婚はさ、すごいマイナスエネルギーを使うものだよな。

**大島** 今まで全て自分で判断して生きてきたわけなのよね。誰からも強制されたわけじゃないし。自分で全部選んで生きてきたことに結局、挫折したってこと：。全部間違ってたんじゃないかっていうような気持ちに陥っちゃった。結婚生活が25年、じゃあその25年間は何だったんだってなるわけ。最初別居して5、6年で離婚したんだけど、その別居するまでが七転八倒だった。

**いぐち** その、決断するまでがきついんですよ。私は27歳くらいで結婚して30歳で離婚したの。離婚するか悩んでいる時に1ヶ月で6キロも痩せた。そう、きつい。

**大島** 相手がどうこうじゃなくて、ただ自分自身をもう全否定したわけ。鬱になっちゃってさ。自分は生きてる意味がないと思っちゃったから。

**いぐち** なるよ。私も離婚後に不眠症になっちゃった。ちよつとやばかった。元夫に「お前なんか誰も雇ってくれないよ」みたいなこと言われて、モラハラ1ですよ。それを内面化しちゃって。1年くらい病んだけど、お金がなくなつて働きに出たら治りました(笑)。

**月** 離婚は大変だね。聞いたらめっちゃ怖いと思つた。

**いぐち** でも一度落ちちゃつたらね、あとは上つていくだけ。

### 癒される、または癒されない

**飯沼** いぐちさんの作品って色面的ですよ。色彩豊かなんじゃないかって、一つの塗りがある。ここまで塗り込む？みたいな塗りが。

**いぐち** 何でだろうね。重ねて厚塗りしていくと色調がちよつと変わってくるじゃないですか。それで「ここまでだな」っていうところまで塗る。塗り過ぎって言われるけど淡々と塗ってる。

**月** 皆は作品を作る時、癒される？例えばそういう塗る時は。

**いぐち** 全然癒されない。朝起きて塗つてご飯作つて。乾いたら塗つてまた仕事して塗つて。削つて塗つて：。アートが癒しとか、救ってくれるものみたいな感覚は全くない。

**月** 私はそういう感覚(笑)。例えばさっき言つた処女膜のことは、描くの前は誰にも言えない。描き終わつたらほつとした。私の課題、仕事が終わつた。皆分かるかどうかどうでもいい。でも私は、やつと不安とか大事な

ことを体の外に出して癒される。

**飯沼** それはね、ある。

**いぐち** ない。

**大島** あるかもね。作業してる時は無で、それがすごく好き。何にも考えない。何しろ作るのに集中しなくちゃいけないから。

**月** そう、そういう感じも癒される。

**飯沼** 私、描くことと塗ることって違うと思つていて。カクつていう言葉は絵を描く、文字を書く、引つ掻く：全部繋がっているって思うんです。それは刻印するとか痕跡を残すことであるのと同じに、傷をつけることで、でも塗るっていうのは、覆い隠すことであり、癒すことかなつて。

**いぐち** 癒す？

**飯沼** 何だろ、葉を塗るとか。

**いぐち** 自分は塗つて描いてないと思つた時はあったの。でもキャンバスを切つて形を作ることが、自分にとつて描くっていう意味なんだなつて思つて。筆では塗るけど、描いてないと思う。

**飯沼** 自分の制作過程で、「描く」の上に「塗る」を重ねた時に、刻印したものを覆って隠蔽しているように思うし、描くことでできる傷を癒してもいるって思つたの。

**いぐち** 癒してるかな、私。癒してないな。

**飯沼** キャンバスの、この切り抜かれた傷を癒している!?

**月** 私も、ずっと塗るって聞いてその質問が浮かんた。でもいぐちさん、全然癒されてない(笑)。

**いぐち** 癒されてる：うーん。なんかね、私はアート活動と、感情的なものを繋げたく

1. モラルハラスメントの略。言葉や態度などによる精神的な暴力。フランスの精神科医マリー＝フランス・イルゴイエンス(1949-)が提唱。

ないんですよ。「アートに助けられました」とか「アートがないとダメなんです」っていうのは嫌なの。嫌いなもの。そうじゃなくて、ずっと自分が走り続けてるみたいなイメージがある。癒されることなく苦しみながら。個展が終わったらカタルシスはあるよ。でも自分の大きな命題の中で、そのテーマが一旦終了してはいないと思うんだよね。だから癒されるとかはない。

**飯沼** 私はある種、日記みたいなものだと思っている。「今の私はここ」みたいな。だから古い作品に加筆するというのがない。この時のこのままで置いておく。

**月** 私も。前の私はあれくらいの知識しか持っていない。そういう感情しか持っていないから、あれは本当の自分。本当の自分だとしたらそのままでもいい。嘘をつかないように。

**いぐち** でもそれってさ、進んでいくっていう思想の中にあるじゃないですか。過去の自分から今の自分に移行していく。そうじゃなく過去からの自分っていうのが直線的にはなっていないから、技術的に変わっても進化はないと思ってる。

**飯沼** 進化じゃなくても…。

**大島** 変化だよ。変化。

**いぐち** 技法は進化するし変化するけど、作りたいものは一生変わらない。

**大島** まあね。さっき昔の作品が今の作品に通じてるって言われたけど、根本的なものは変わらないと思う。でもやっぱり、さっき言ってた日記っていう面が、私はすごく強い。**いぐち** 去年、自分の古い作品を全部出して、チェックしたんですよ。意外と変わってな

いし、下手なだけで面白いなって。

**大島** 昔の作品なんか見たくないな。アトリエ中に作品がわーってあるの。なんとかしなくちゃって、あんまり気に入ってないのを開けると「なんでこんなの、もう！」ってチエーンソーでぶった切るもん。それで新しい作品に使う。幾つもそうした。

**月** 昔の作品の一部は、今の作品の一部になって再生じゃない？私は過去の自分、全部面白いと思ってる。

**大島** まだ若いからね。取っついたらほうがいいよ。

## 生と美術、死と美術

**飯沼** 大島さん、制作しなかった時期ってあるんですか？

**大島** やらなかつた時期はないね。糸がもう切れそうな時はいっぱいあったよ。勤める時はそう。働きながら彫刻やるっていうのは本場にきつかった。何でやめなかつたのかなーと思ったら、自分が制作してる一人の間だっということが大事だったの、私にとっては。勤めるとその集団の中でいろんなストレスがあるわけよ。十二指腸潰瘍で入院したこともあるし、校長と喧嘩したり色々。その中で私が自己主張できたのは作品を作っているから。延々長い会議で私は「今日は17時半にモデルさんが来ますので失礼します」ってパーっと帰るわけ。私さ、今から思うとよくやったなーと思うけど(笑)。だから自分が生きてる証なのよね、作るってこと自

体が。それやめて「ただの図工の専科の教師だろ？」みたいな感じで終わるのは嫌だったのよ、やっぱり。だから細々とだったけど、続けてて良かったなーと思うもん。そうしないとかんな強い自分になれなかつた。

**いぐち** 私はなんか、いつやめてもいいなと思ってた。絵とか、作ることを。簡単にやめうって自分では思ってるんだけど意外とやめない。不思議ね。

**飯沼** それはすごいよね。私は結構しがみついている感覚がある。

**いぐち** 今年、病氣した時に本当にやばかったの。先生にも息が止まったら死ぬからって言われて。死ぬかもしれないって思いながら、入院の時に鉛筆と紙を鞆に入れるわけですよ。死ぬかもしれないのに、このおかしな状態で作る作品ってどういうものなんだろうっていうことがすごい気になった。で、絵を描いたの。複視の症状があるんだけど、1本の線が2本に見えるわけ。線を引いてるとだんだん、どこを見てるか分かんなくなるんだよね。不安定になってくるの。その線を見ながら、気持ち悪くなりながら「あ、こういう風に見えるんだ」って。それは面白かった。その時、自分の体のことより作品が見たいんだなって意外に思ったの。

**飯沼** しかも、その時には描いたんだね！

**いぐち** あー、ドロイング<sup>1</sup>ってこと？私ね、初めて描いたの。だから不思議だったんだよね。結局ほら、持ち込める物って紙と鉛筆しかないじゃない？それがまた…言われてみればそうだよ。

**大島** それはさ、やっぱり生き抜こうとす

1. 線を引く(draw)行為に重きを置く線画のこと。構築的な絵画に対し、イメージや感情などを引き出す(draw)即興的または習作的なものを指す場合もある。



る力なんだと思う。話聞いてて。

いぐち 全然そういうんじゃないと思う。なんかその時に、生死っていうのが関係なくなるのよ。作りたいっていうことと自分の病気が…何て言うの、分離されちゃう感じ？

大島 その関係なくなる思考自体が…。

飯沼 防衛反応みたくない？

大島 そう、思考を変換させたのよ。

いぐち 反対。その解釈は嫌だ。自分は芸術活動に対して、ある種批判的なんです。そこにすがりついてもいないし、これがないとダメみたいな思想も持ちたくないし。なのに死を目前にそれをやってしまった自分に対して、なんか新たな面を見たなと思ったの。

大島 でもそれってすごい素晴らしいことじゃん。

いぐち 嫌なんだよ、そういうの。

大島 自分で否定してもしょうがないよ、それは(笑)。

飯沼 そのうちに受け入れる時が来るかもしれないですよ。

いぐち そういう時が来るかもしれないけど今はまだ突っ張っていたい。

大島 分かる分かる。私くらいになるとね、受け入れるよ。

いぐち でもそこは一つ転機だったのかも。知寿子さんが言ったように初めて描いたっていうことだから、その後何が出てくるのかなとも思う。全然次のこと考えてないけど。

大島 いやー、いい話じゃん。

## 胎児と同じ夢を見る

月 普段は死ぬことが全然怖くない。でも、もし私が今すぐ死ぬなら一番思い出すのが

赤ちゃん。無理、私は死ぬのできない。

いぐち それはさ、社会的なものなのかね。兎ちゃんが「子どもを守らなきゃ」って思うのは社会的に作られてる考えなのかね。

月 本能じゃないですか？

飯沼 ボーヴォワールを読むとき、本能は否定されてるんじゃない？

いぐち フェミニズムの問題って結局、母性とか本能を否定していくわけですよ。

月 でも私の感情は本能がめちゃ多い。

いぐち だからそれは感情だけど、社会的にそう考えさせられてる可能性もあるよって話。

大島 社会的なものっていうのは結局、自分が産んだ子どもが一人前に成長するまでは責任を持ってちゃんと育てねばならないっていうことだと思ふ。それも確かにある。けど全部それかって言われるとちよつと違うような気もするのよね。母性っていうか…愛かしら(笑)。

飯沼 愛ですよ！それを母性っていう言葉にすることがおかしいと思ふ。子どもを守るとか愛するっていうのは、そういうホルモン、オキシトシン<sup>2</sup>が体内に分泌されるから芽生える感情だと思ふ。

いぐち それは男も出るの？

飯沼 出る、出る。

いぐち それを女の人が言うのと、母性的に解釈される可能性があるから気をつけた方がいいと思ふの。「私の本能」が「女の本能」っていう風書き換えられる可能性がある

ということ。

月 他の女性とは私と同じじゃないと思ふ。私は胎児と一緒に夢を見た。でも聞いたら皆ないの。私は悲しい夢を見る時めっちゃ泣きたい。目が覚めて私の胎児は泣いてるのことが分かった。

飯沼 お腹の中で赤ちゃんが泣いてるって感じたの？

月 はい。その時彼女はちゅ、ちゅ、ちゅってやってた。困って自分のお腹を撫でたら彼女は突然にめちゃ安心な感じに変わって寝た。だから絶対…彼女は同じ夢を見たじゃないかもしれないけど、私と同時に悲しいと感じた。私もよく分からない。他の人になんか何回もあった。こういう繋がりは普通の人間同士の繋がりと違う。だから絶対、社会的な文化の影響だけじゃない。

いぐち 正直に言うと、自分は子どもを産んでないからいまいち分かんないのよ。出産とか妊娠に対する考えが、強いついていうの？子どもを欲しいと思つたことはあるけど共有はできない。それですごく母性本能みたいに聞こえるんだよね。女たるもの皆持つてるみたいに。

大島 元々あるんじゃないの。目の前の子どもを育てているうちにそうなってくるの。

いぐち それは社会的なものじゃないの？ホルモンが出るからっていう話？

飯沼 そうそう、だからイクメン<sup>3</sup>がオキシトシンの影響で、保護するとか世話をする性質が強まって優しい感じになっちゃう。

月 それと皆は私と違うから、絶対皆もそういう感情があるとは思わない。

1. 女性特有の子どもを産み育てる母らしい性質や資質と考えられてきたが、現在ではそれが出産と子育てを女へとジェンダー化する概念と捉えられている。 2. ホルモン的一种。出産時に子宮を収縮させ、子どもを愛し、世話する性質を強める為女性ホルモンと呼ばれることも多かった。現在では男性も分泌することが知られ、子どもを世話することで分泌量が増し、拮抗するホルモンで男性ホルモンと呼ばれることも多かったテストステロンが減少するとされている。 3. 「育児をするメンズ」の略称。子育てに積極的に関与する父親、男性を指す。

## 母と娘

**いぐち** 私の母親はね、「あなたのことを私は全部分かる」って言うの。それを思い出すので嫌なのかもしれない。「私はお母さんと違う人間なんだから私のことを全て分かるはずないでしょ」って言い続けているんだけど、彼女にはそれが理解できない。

**月** それは良くないね。

**いぐち** お腹にいる子どもとの関係性っていう話で、自分が母親にそう思われてんのかなっていう恐怖を感じちゃったわけ。

**大島** お母さん、何でそんなこと言えるんだらう。私なんか娘と半分絶交状態だもん、今。

**いぐち** でも大島さんも言ってるかもしれないですよ、嫌われてるってことは。

**大島** 言っていないよー、そんなこと。逆なのよ。「一人で生きていける人間になれ」って言って、蹴っ飛ばして育てたからさ。私が愛してなかったって言うの。

**いぐち** 抱きしめられてなかったのか。

**大島** 「抱きしめたよ、何回も」って言うんだけど、抱きしめてなかったって。反省してるけどね。私ほら、自分のことで手一杯だったからきつと彼女はねー、色々あったんだと思う。それ言えなかったのよね、私に。「本当は髪の毛長くしてフリルのついた女の子っぽい服着たかったのに、お母さんは短く切るし男の子みたいな服しか買ってくれなかった」ってあなた、40過ぎの娘にさ、言われてさ！

**飯沼** でも今、やっと言えるような関係になってきているってことじゃないですか。

**大島** いやいや。いつも電話の最後は彼女が泣き叫んで終わるの。「愛してくれなかった」って。

**いぐち** そうやって癒されてるのかもしれないですよ。私の、母親に対する諦めとは違う。

**月** 私の母は仕事大好きでめちゃ忙しい。彼女は完璧な母じゃない。文句いっぱいあるけど、私は母をめちゃ愛してる。だから私も完璧な母にならなくても大丈夫の勇氣をもらった。大島さんは文句いっぱい言われてるけど、娘さんは愛してるから言うと思う。私、嫌いな人にわざわざ文句言いたくない。縁をすぐ切る！言いたいのは絶対愛してるから。心の中には葛藤がある。

**大島** そっかー、逃げてちゃだめなのかな。でもいくら謝っても許してもらえないし。

**いぐち** それはもう抱きしめるしかないですよ。ハグ！

**飯沼** あ、ハグかもしれない。私の母は私の面倒をすごくみたと思っているんです。でも、たぶん私にはそれが当然のことで透明になっちゃってしまっていて、あんまり相手にしてもらえなかった記憶ばかりが残っている(笑)。

**大島** あー同じだわ、きつと。

**飯沼** そういうものなんですよ。でも今はちゃんと理解しています。

## 家父長制の家族の歪み

**いぐち** 私の母親は娘が子どものうちにはかわいいけど、大人になっちゃったら嫌なのよ。

だから娘の生理も拒絶する。すごく嫌がられたの。家族の中に大人の女は自分だけで良くて、娘が女になることを否定するんだと思う。

**飯沼** それはやっぱり、家父長制の価値観が影響している気がする。

**月** 「若さは一番大事な女性の価値」は家父長制社会の価値観。だから母親は、自分ももう年上で若い娘を見て嫉妬する。

**飯沼** そうだよ。老いていくってことだよ。老いた女はこの価値観では…。

**いぐち** いらないものだから。

**大島** 石原慎太郎だな。「女性が生殖能力を失っても生きていけるのは無駄で罪」。

**飯沼** そういふのを内面化しているというか。お母さんは全く働いていないの？

**いぐち** 働いてないの。

**飯沼** じゃあ、そこにしか自分の価値を見出していないわけですよ。本当だったらもつといるんな可能性があったのに。

**いぐち** でも母親はずーっとテニスしまくってて、家事を全くやらなかったんだよ。洗濯も掃除もしない、ご飯も作んないみたいなの。

**飯沼** 子どもが家事していたんですか？

**いぐち** 怒られるからしない。洗濯物が溜まっていつて結局母親がまとめて洗濯するんだけど、制服とか間に合わないから汚いのをまた着てたよ。

**飯沼** 洗濯するなって言うの？

**いぐち** そう「水の無駄よ」って。意味分かんないでしょ？自分がやることに手を出されるのは嫌なんだけど自分はやらない。

**飯沼** あー…辛いね。つまり自分が主婦

P. 10 1. 『週刊女性』2001年11月6日号の記事に掲載された当時の東京都知事、石原慎太郎(1932~2022)の発言。惑星学者の松井孝典(1946~2023)の発言の引用とするものの松井の見解とは全く異なるものであり、石原自身の見解に基いた発言とみなされる。

P. 11 1. 映像作家。日本のメディア・アートの先駆者。主婦やジェンダーの視点で撮った実験的なビデオ・アートや映画作品で知られる(1940~)。  
2. 映像と音声を扱う芸術ジャンルのひとつ。1960年代に始まり、1990年代以降はデジタル・テクノロジーを活用した芸術作品であるメディア・アートに包含される。

だつていうところにしか価値を見出せないから、娘達に家事をやらせたくないわけでしょう？ だけど本当は家事なんて好きじゃないんだよ!? …歪んじやうよね。

いぐち そのとばっちりをこつちが食うわけ。お腹が空いてその辺にあるものを食べるじゃん。で、母親がテニスから帰ってきてシャワー浴びてビール飲んで、食事が9、10時。食べないって言うとうすごい怒られるから、お姉ちゃんも私も中学の時すごい太つてた。今思うと虐待だよな。そういう生活を高校出るまでずっとした。

大島 いやー、それは大変だったね。

いぐち そう、よくいい子に育つたでしょ？ 母親に対して愛情はあるけど、まあ期待はできない。母とその出産の話に対して、過敏に反応するのはそのせいかな。母性的なものに巻き取られてきたから嫌なんだよ。怖い。

飯沼 考えてみると、私が最初にフェミニズム・アートを認識したのは出光真子<sup>1</sup>のビデオ・アート<sup>2</sup>だった。大学の時、文化人類学の先生が見せてくれたの。美術の先生じゃなくて(笑)。主婦の傍らにモニターがあつて、常に目が映されている。不気味な眼差しを受けながら鬱屈とした主婦業をこなす女性性が描かれていたけど、その眼差しは家長制の社会から向けられていたんじゃないかな。むしろ、それを内面化した主婦自身の眼差しだったのかも。

月 成長してもまだ、自分の子どもを自分のものと思うのが絶対いい思想ではない。それと、母親が生きたくないから赤ちゃんと一緒に死ぬのニュースもあった。でも私がよく

観察すると、赤ちゃんは本当になんばつて生きてる。赤ちゃんは大人になったら自殺したかもしれないし「何で私を産んだ」と言うかもしれないけど、赤ちゃんの時は本当に必死に飲んでウンチを出して、何をやるのも全部必死だから私は感動した。私が子どもの時もそうなんだ、生きたいんだ！

大島 そう、そうだったんだね。私達もそうだったんだね！

月 そう、私も生きたいんだーと思った。

\* \* \* \* \*

大島 だけどさ、こういういろんな問題意識を持つ人達と一緒に展覧会をやつてそれぞれの作品を展示するわけじゃない。誰かさんの展覧会にただ一緒に参加するのは違つて、話を重ねてきてそれぞれの考えとか感性が分かつてくると、またね。

月 あー、確かに。話が分かつたらまた作品を見るのが違う。

大島 だから4人で展覧会する意味があるんだね。私最初さ、あー面倒だなーってちよつと思つてたのよ、話も延々長いし。

いぐち 延々長いし(笑)。

大島 だけどやつてるうちにだんだんさ、作品見るのが本当に楽しみ。

飯沼 「性と生殖」は、開かれた会話で扱うには少し厄介だけど、Chatterboxの展開に欠かせないテーマと思つていました。皆さんのフランクな人柄もあり、幾つもの核心に触れることができました。長時間ありがとうございました。

## いぐち なほ

# B

東京都生まれ  
1996 学習院大学文学部哲学科 卒業

### 主な個展

2022 “Beyond the Limit”トキ・アートスペース、東京  
2021 “analysis”トキ・アートスペース、東京  
2020 「n次元-描かれない形と色-」トキ・アートスペース、東京  
2019 「n次元」トキ・アートスペース、東京  
2018 「さんかくとあお」トキ・アートスペース、東京  
2017 「うねりとピンク」トキ・アートスペース、東京  
2016 「まとむらさき」トキ・アートスペース、東京  
2015 「とまどい」トキ・アートスペース、東京  
2014 「境界」トキ・アートスペース、東京  
2013 「とらわれる」トキ・アートスペース、東京  
2012 「まねのまねのまね」トキ・アートスペース、東京  
2011 「名付けられないもの」トキ・アートスペース、東京  
2009 「いぐちなほのこっそりアート」  
CAFE SOMMEIELLER、東京

### 主なグループ展

2023 「Hybridity - いぐちなほ 伊原乙彰 To be, or not to be, that is the question.」トキ・アートスペース、東京  
2022 「まるごとギャラリー2022」神奈川  
2017 「第11回丹沢アートフェスティバル」  
田中現代美術研究所、神奈川  
2006 「緑化する感性-街道を読む-」  
吉川英治記念館別館、東京  
2004 「ART FIELD 出版記念展」あ〜とじょいばるば、東京

## 飯沼 知寿子

# C

1984 神奈川県生まれ  
2008 第23回ホルベイン・スカラシップ奨学生  
2010 東京造形大学大学院 造形研究科 修了  
2017 第53回神奈川県美術展 厚木市文化振興財団賞 受賞

### 主な個展

2023 飯沼知寿子展「Silhouette 一言葉が満ちる空間で」  
学習院女子大学文化交流ギャラリー、東京  
2022 「断片集」ギャラリーいちょうの木、東京  
Chatterbox III—変化を伴い持続する4人—  
飯沼知寿子“Noise”ギャラリー檜B、東京  
2021 Chatterbox II—交錯する4人の場面—  
飯沼知寿子「点に在す」ギャラリー檜F、東京  
2020 Chatterbox—4人の語りとそれぞれの表現—  
飯沼知寿子“Blind Spot”ギャラリー檜B、東京  
トキ・アートスペース企画シリーズ“Realization”vol.1  
“Unneutral Square”トキ・アートスペース、東京  
2018 「明るさについて」Gallery & Café DODO、東京  
2017 トキ・アートスペース企画シリーズ“Solid Will”vol.6  
「反復の息づかい」トキ・アートスペース、東京  
2016 トキ・アートスペース企画シリーズ“Real/Material”vol.7  
“Field”トキ・アートスペース、東京  
2013 トキ・アートスペース企画シリーズ“Critical Painting vol.2”  
「絵画という祈り」トキ・アートスペース、東京  
2010 「飯沼知寿子展」トキ・アートスペース、東京

### 主なグループ展

2022 「第6回 八色の森の美術展 たおやかなまなざし」  
池田記念美術館、新潟  
2021 「オリンピック終息宣言展2021」  
神楽坂セッションハウス、東京

## 月 兎

# e

1993 中国河南省生まれ  
2015 吉林大学工学部自動車工学院 卒業  
2022 武蔵野美術大学大学院造形研究科 修了  
「武蔵野美術大学 卒業展」研究室賞 受賞  
2023~ Moon Gallery & Studio オーナー

### 個展

2022 「— 身体、そして生命 —」ギャラリー巷房2、東京

### 主なグループ展

2023 「風南沿海530公里」LIMIT ying Art Space、福建省  
「我向許多人打听過你」性教育展、悅然広場B1、貴州省  
「看不見的边界線 尹朴陶熙 陳玥同 二人展」  
東郊記憶 F.B.Antique、四川省  
「ういたび CELEBRATING」  
Moon Gallery & Studio、東京  
「心生-当代性教育芸術展」中国温州龍溪芸術館、浙江省  
2022 「我向許多人打听過你」性教育展、  
高北十六創意園区、広東省  
“First International Print Online Exhibition 2022”  
シラパコン大学、バンコク  
「第45回 東京五美大展」国立新美術館、東京  
「protect 施瑞文・月兎・夢露 三人展」ギャラリーなつか、東京  
「武蔵野美術大学 卒業展」武蔵野美術大学美術館、東京  
2021 「全国大学版画展」上田市立美術館、長野  
「山本鼎版画大賞展」上田市立美術館、長野  
「日本版画協会展」東京都美術館、東京  
「版画五美大2021:ポートフォリオ版画集展」  
多摩美術大学、東京  
「ドローイングとは何か」展、東京都美術館ギャラリーB、東京

## 大島 美枝子

# F

大阪府生まれ  
武蔵野美術大学彫刻科 卒業

### 主な個展

2022 K'sギャラリー、東京  
2020 百笑の台所ギャラリー、神奈川  
2019 ざらりー由芽、東京  
2017 ギャラリーf分の1、東京  
2015 えすばすミラボオ、東京  
2011 ギャラリー砂翁、東京('14)  
2009 ギャラリーブロッケン、東京  
2003 ガレリア・グラフィカ、東京  
1997 ざらりしらの、東京  
1994 銀座アートホール、東京

### 主なグループ展

2023 「BODY TALK展」えすばすミラボオ、東京  
2022 「森の彫刻展」アフリカンアートミュージアム、長野  
2020 「花とみどり・いのちと心展」  
国営昭和記念公園花みどり文化センター、東京(~'23)  
2015 「Kanu Nayak Art Foundation石彫シンポジウム」ムンバイ  
2008 「三鷹アーティストネットワーク展」三鷹市美術ギャラリー/  
ざらりー由芽のつづき、東京(~'13,'17,'19)  
2007 「第2回グワリオール国際彫刻シンポジウム」  
インド・グワリオール  
2001 「TAC(多摩現代美術家会議)プロジェクト展」東京  
(~'07,'13)  
1972 「日本アンデパンダン展」東京都美術館/国立新美術館、  
東京(~'24)